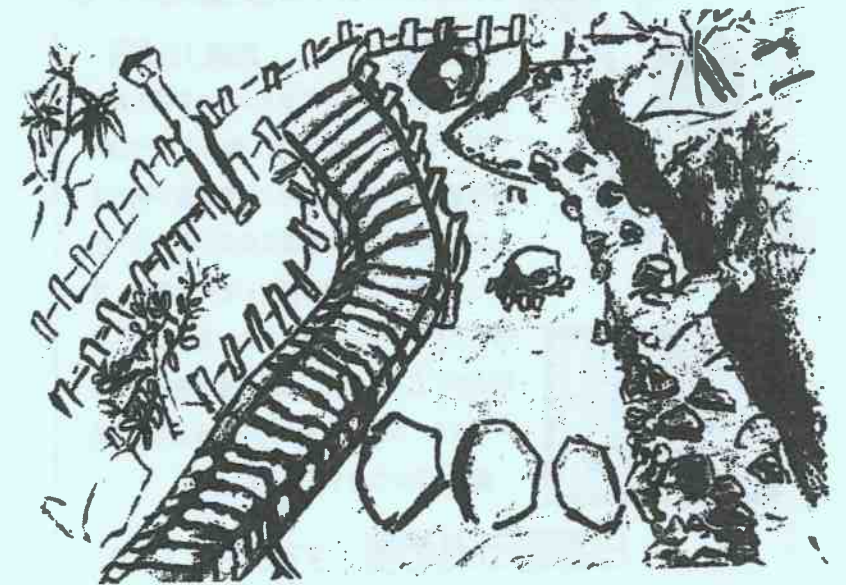


ふれあい雪谷

平成21年

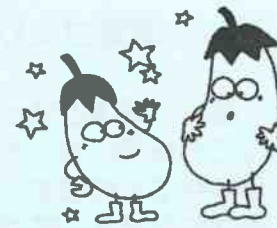
あさがお号

通巻第75号



風が泣いて草がゆれている

小池小学校6年 原田きあらさんの作品



「あれから? 十年の月日の中で」

私は、一年に一回会うことが恒例となっている友人達が四人います。高校一年の時のクラスメイトで、その中の一人は中学三年の時も同じクラスで、仲の良いグループの中の一人でした。高校一年でも同じクラスになり、お互いに仲良くしていました。

振り返ると、高校時代、同じクラスの時は普通に仲良くしていましたが、クラス替えて5人バラバラになると、「ベタリ」ではないけれど、何かあるとお互いのクラスに会いに行き、付き合いは続いていました。

部活動は、二人は卓球部、一人は剣道部、私は軟式テニス部でした。彼女たちとは別に、私は同じテニス部で知り合い、同じバス通学をしていた友人に出会いました。その親友とは、三年間交換日記をやり取りしながら友情を育みました。会った瞬間に波長が合い、大笑いするポイントが同じだと感じ、自然と一緒に過ごすことが多くなりました。「なぜあなた達は仲がいいの?」と周囲から聞かれるくらい性格が違う私達でしたが、内面の根底は似ていたせいかもしれません。

こんな風に、どちらかという部活で知り合った親友の方が、私の中では基本的な心の友でしたが、色々な場面で出会った友人達にも支えられ、成長してこれました。

その親友とは、結婚・子育ての間中もずっと親交はありましたが、いつしか年賀状だけのつき合いに変わり、今ではそれさえも無くなり、心配しながら年月の移り変わりを感じています。

さて、私達五人は所々で付き合いが途絶えたりしながら、その中の一人の結婚式で再会し、親交が復活することになりました。

きっかけは高校時代の同窓会。本来の同窓会は欠席はしましたが、五人での同窓会がまとまり、以後、いつも幹事を務めてくれる一人の集合メールで、休日のバイキングランチのあと喫茶店でティータイムを楽しみます。

家族のこと、子供の学校のこと、仕事のこと、今話題になっていることなど、各々五人の口から色々な話題が飛び出し、話す内容はあの頃とは違いますが、「あの頃に戻る時間」です。その中で、お互いの成長や変化を喜び、確認することができる気がします。

年月は、友との関係も変化させますが、細く長く続けていきたいと思っています。来年もまた会うことにしています。

(石川台 E・K)

「編集後記」

小池公園のオーブンシングセレモニーが四月四日に行われました。編集委員も当日の写生から表紙にふさわしい画を選びました。

都会の真中とは思えない武蔵野の面影を残す静かな公園では、子供たちが浅瀬で水と戯れ、手押車の赤ちゃんとお母さんが池の周囲を散策、老人がベンチで談笑と、皆思い思いに楽しんでいました。公園をいつまでもきれいに維持するため、皆協力してまいりましょう。

(南雪谷 太田 眞弘)

【発行】 地域力推進雪谷地区委員会

【編集】 ふれあい雪谷編集委員会

連絡先 雪谷特別出張所

大田区東雪谷三六二

電話三七二九一五一一七

【発行日】 平成二十一年七月一日

通巻第七十五号

ホームページ

<http://www.city.ota.tokyo.jp/nishi/yukigaya/index.htm>

私の健康法 34

週一回のボーリングが楽しい

私は現在八十をちょっと過ぎた年齢である。毎週金曜日、仲間とボーリングをしている。

メンバーは六十歳以上で十五名(女性が十名)。平均十名から十二名が参加する。蒲田のMONボーリングに朝十一時集合。三ゲームをして成績発表と食事会をしている。時に話がはずむと引き続きカラオケ大会になることもある。

このボーリングの会(もう二十年以上続いているそうだ)に参加し始めて十年が過ぎた。毎週となるとなかなか続けるのが大変であるが、やはりボーリングをしている



と楽しい。メンバーの中にはマイボール・マイシューズを持参してプロ仕様の人もいます。成績の方はまあまあとして、とにかくみんなそれぞれストライクだ、しまつたガターだ、スベアをとった、と声を掛け合っている。ゲームをしている時間が楽しいのである。また、この後の食事会がゲームの成績発表と反省会で盛り上がる。私の健康法と言えるかどうかかわからないが、いま、体にいいことだと思っている。

(東雪 長田 達男)

サークル紹介 44

ことばは、心と心の掛け橋

私達のグループは英語、韓国語、スペイン語、インドネシア語など19カ国語を、毎週メンバーが集まり、勉強ではなく、赤ちゃんと一緒に「聞こえたままを真似して話せるようになる」ヒップファミリークラブです。大田区内には16のグループがあり、赤ちゃんから80歳のシニアまでいます。ホームステイ交流もあり、「外国に出かけて行く」と、「我が家に受け入れる」があります。

東京工業大学の留学生の受け入れは10年前から続いています。私は6年前にインドネシアのA君を受け入れました。インドネシア語で「スラマシアン(こんにちは)」と話かけると満面の笑みで



問合せ先090-1658-5243
(池の台 渡辺)



設置しよう 住宅用火災警報器



設置義務 平成22年4月1日

早い発見が、あなたの生命を守ります

田園調布消防署 3727-0119

付けていて良かった 住宅用火災警報器



平成22年4月1日設置義務化

(実効事例)

2009.1 大田区

女性(80歳代)がガスコンロに鍋をかけて点火したまま、近く買い物へ行ったため、鍋が空焚きとなり住宅用火災警報器が鳴りました。隣りの主婦が警報音に気づき、外へ出ると、隣家から白煙が出ているを発見、玄関ドアを叩いても返事がなかったので119番通報するとともに、台所の窓を壊して建物内に入り、ガスコンロの火を止めたため、間一髪で火災にならずに済みました。



田園調布消防署 3727-0119

「お詫びと訂正」

ふれあい雪谷21年さくら号掲載の表紙「未来の青空へテイクオフ」の作者「竹内智也」君は「竹内智哉」君の間違ひでした。お詫びして訂正いたします。

美しい環境とはと考えた時、数年前に歩道に植えられた桜のことを思いました。毎年、沢山の花を付け私たちの目を楽しませてくれます。散る時もはらはらと舞う花びらは美しく心が和みます。花が散った後は葉を茂らせ緑豊かに、そして夏、木々の木陰が日差しをさえぎり、私たちに涼風を与えてくれます。一本の桜の木が私たちに多くの恵みを与えてくれますが、散った花びらや落ち葉が、会社の雨水用の浄化槽に溜まり、手をやくこともありました。

しかし昨年秋は、毎日ブロックごと敷地内に溜まった落ち葉まで、きれいに掃除して下さる方がいました。

美しい景色は、自然や歳月によって作られる物もありますが、美しい環境はそこに集う人々の日々の努力や優しさによって築かれるのだと思います。美しく咲く花や木々の緑は人を和ませてくれますが、日々その世話をすることも大切で、それは動物に対しても同じことだと思います。一人一人が思いやり、不快な思いをさせない心遣いや優しさが美しい環境を作るのではと思います。私も仕事や時間に追われると人への配慮を失いがちですが、これからは心に少し余裕をもって、優しい気持ちで自分だけではなく、人にとって心地よい環境について考えていきたいと思っています。

(上池上 高島 七重)

Tさん

私は訪問介護の仕事をして5年しており、様々な方々と接してきました。とりわけ、私の介護一年生からのお客様で、印象深いTさんのお話をしたいと思います。

Tさんは亡父と同じ明治生まれで、職業軍人としてアジア各地を転戦したとのこと。当初は「おはようございます」には笑顔で、昼食は「美味しい、美味しい」とお召し上がり、会話もユーモアが交じり、何事に対しても「ありがとう!」が返ってきました。しかし、昨夏から少しずつお体に変化、昼夜、時間、ご家族等の認識、判別ができなくなり、今春の転倒を機に転がるように状態が悪化しました。やがて在宅介護の限界、ご家族の苦渋の選択での入院、現在一進一退を繰り返しています。お元気な内に「百歳まで頑張ろう!」と励まし、親を思い出しながらのお世話でしたので残念でなりません。

訪問介護はご本人の身も心もすっきりとし、最後まで人間の尊厳を失わずに生きていけるお手伝いをすることはもとより、ご家族がひと時でもホッとできる時間を持つ手助けができた、と思いながら仕事をしております。でも、本当はお客様から教えられることが多く、ある意味では助けられているのかも知れません。厳しい現実と日々同行ですが、幸せな仕事をしていると感じながら、今日も自転車を漕いでいます。

(笹丸 小林 栄子)

「リレー」随筆。 新しい小池公園の誕生を 祝って



4月4日に新しい小池公園がオープンした。地域の多くの皆様が待ちに待った公園のオープンであった。

そもそも小池公園は、釣堀公園として従来から地域住民の安らぎの場所であった。今は大学生となっている長男をつれて釣りに行ったことを懐かしく思い出す。また、長男長女が小さいときに、しばしば子供たちの心持を落ち着かせるため、公園に通ったものである。古い時代のブランコやすべり台には、子供たちの小さかった時代の思い出と、私の若かった時代の記憶が残っていた。

そのすべり台もブランコも真新しくなって子供たちを迎えようとしている。この度、新しくなった小池公園も、若いお母さんやお父さん、その子供たちの素晴らしい思い出を育むこととなるであろう。

もちろん、小池公園の近くに住む多くの区民にとっての安らぎの場であり、また、自然に親しみ環境教育を行う現場ともなるであろう。

天然の湧水があり、周囲400メートルの公園は、その空間の広がりの中で、私たちが求めている自然を大きなパノラマのように目の前に展開している小武蔵野の景観を持つ。

この自然豊かな公園を私たちも大切にしながら、そうした地域の永遠の文化と伝統の拠点として、新生小池公園が更に親しまれることを期待します。

(小池 松原 仁)

編集委員会からのお知らせ

「ふれあい雪谷」の情報紙は、各自治会を通して皆様への回覧をお願いしておりますが、お手元に保存し、ゆっくりお読みになりたいご希望の方は、編集委員会にお申し出ください。また、雪谷地区の公共施設(出張所や区民センターなど)に置いてありますので、そちらもご利用ください。

※4月1日から、ふれあい雪谷の編集委員が替わりました。

笹丸自治会

(新) 成澤 千代子 (旧) 横田 順